

【科目名】聴覚医学		【担当教員】高橋 圭三							
【授業区分】専門分野 (聴覚障害学)		【授業コード】5-31-1190-0-1		(メールアドレス) Takahashik@nur.ac.jp					
【開講時期】1 年次 後期		【選択必修】必修		(オフィスアワー)					
【単位数】1		【コマ数】8		月～水 5 限					
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 必修科目で、講義への出席は重要です。試験及び国家試験で問われることの多い事項を重点的に講義します。  (受講のルールに関わる情報・予備知識) 国家試験の過去問題を解きながら理解を確認するため、配布する資料は毎回持参すること。									
【講義概要】 (目的) 言語聴覚士に必要な聴覚器官の解剖 (外耳・中耳・内耳・聴覚路・聴覚中枢等) および生理 (集音・伝音・感音・聴覚中枢等)、そして全般的な聴覚学等の総論、さらに各疾患の各論を学ぶことを目的とする。 (方法) 各聴器疾患の病態生理学を、そして聴器の最大の障害である難聴 (伝音性・感音性・混合性・中枢性・機能性・先天性等)、そして外耳・中耳の奇形や外傷、耳硬化症等について学ぶ。また前庭性の疾患 (メニエール病・良性発作性頭位眩暈・突発難聴等)、聴神経腫瘍、さらに皮質聾等についても学習する。									
【一般教育目標(GIO)】 ・聴覚器官の構造・機能など、基礎的事項について理解を深める。 ・聴覚障害の病態生理を十分に理解し、検査やリハビリテーションなどについて言語聴覚士として必要な知識を身につける。									
【行動目標(SBO)】 ・聴覚器官の構造・機能などを説明できる ・聴覚障害の病態を理解し、関わる検査を説明できる									
【教科書・リザーブドブック】 森満 保・『イラスト耳鼻咽喉科 第4版』文光堂, 2012年. ¥5,145									
【参考書】 山田弘之 佐場野優一・『聴覚障害 I 基礎編 第5版』建帛社, 2005年. ¥2,520									
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。									
【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	20						100 点
評	取り込む力・知識	80	20						100

平成 26～28 年度入学者用

価値指標	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法		学修課題(予習・復習)	時間(分)				
1	イントロダクション、音とは	講義		予習：P.4～9	30				
2	聴器の構造① 外耳、中耳の構造	講義		予習：P.4～9	30				
3	聴器の構造② 内耳、聴覚路、聴中枢の構造	講義		復習・復習：P.4～15	60				
4	聴器の機能① 集音機構、中耳伝音機構	講義		復習・復習：P.16～17	45				
5	聴器の機能② 内耳感音機構、聴覚路・聴中枢の機構	講義		復習・復習：P.18～29	45				
6	伝音難聴と感音難聴	講義		復習・復習：P.42～45	45				
7	聴器の病態・難聴の原因と発症時期 伝音性、感音性、混合性、中枢性、機能性、先天性、後天性難聴	講義		復習・復習：P.16～21	30				
8	外耳・中耳・内耳疾患、後迷路疾患 メニエール病、老人性難聴、聴神経腫瘍、皮質性難聴その他の疾患	講義		復習・復習：P.74～129	60				

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。